

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：公益財団法人福島県国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業
事業の目的	<p>広い県土を有する本県では、外国出身県民が集住しておらず、県内各地に散在して暮らしている。こうした外国出身県民が、日常生活をする上で必要かつすぐに使える実用的な日本語能力を習得できるようにするため、文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教育の教材例集』を基本テキストとし、県内各地の日本語教室や外国人コミュニティの協力を得て日本語教室を開催するとともに、日本語ボランティアを対象としたスキルアップ研修会も併せて実施する。</p> <p>また、日本語教室空白地域が存在することから、開設に向けたトライアル日本語教室を開催する。</p> <p>さらには、セミナー等の実施により事業による成果を広く県民と共有し、生活者としての外国出身県民にとって、日本語教育が重要であることへの理解の促進を図ることとする。</p> <p>こうした県全域への波及効果を視野に入れた総合的な取組により、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制を整備することを目的とする。</p>
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>(日本語教育活動に関する地域の実情)</p> <p>県内で活動している日本語教室は、59市町村のうち19市町村に33教室あり、そのうち11教室については市または町の国際交流協会が運営し、残りの22教室は日本語ボランティアにより運営されている。支援者数は横ばいであるが、学習者数は減少している。日本語教育を実施している専門機関としては3団体あり、主に日本での進学を目指す外国出身者や留学生等が学習している。(課題)</p> <p>当協会が外国出身県民に行ったアンケート(平成27年8月実施)によると、外国出身県民は、ライフステージに応じた子どもの教育や配偶者の親の介護、遺産相続、葬式への対応、自分の健康や老後のことなどについて、日本語が十分に理解できないために知識が不足し、そのため不安に思いながら生活しており、多くの人が生活に必要な役立つ実用的な日本語を習得したいと考えている。しかしながら、地理的及び時間的に通える日本語教室がなかったり、学習内容が自分のニーズに合致していないため教室に通うことをやめたりしており、日本語学習が十分にできる環境にあるとは言い難い。</p> <p>また、県内の日本語教室では、運営に携わる日本語ボランティアの年齢層が高く、新規ボランティアの参加が少ないことから、メンバーの固定化と減少、さらにはスキルやモチベーションの低下を課題としてとらえているところが少なくない。</p> <p>加えて、他の教室と連携してお互いに情報交換したり、県外の先進的な事例を学び指導や教室運営の参考にしたりする機会が限られていることから、日本語ボランティアの連携強化とスキルアップを図る必要がある。</p> <p>なお本県は県土面積が広く、約1万人の外国出身県民がほとんどの市町村に散在して居住しているが、市町村の中には、外国出身県民が全人口に占める割合が比較的高いにも関わらず、日本語教室が無い空白地域があり、日本語の学習を希望する者は、近隣の自治体の日本語教室に通っている。</p> <p>県内には、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム等の同国出身者によるコミュニティが存在しており、メンバー同士の交流や情報交換の場が留まらず、地域社会に向けて自国の文化や言語の積極的な発信を行っているところもある。しかしながら、そうした外国出身者のコミュニティが、日本語学習の場となっていることは少なく、同国出身者同士のコミュニケーションにより生活に必要な情報を得ていることで、かえって日本語の能力がなかなか向上しない人も一部に存在する。</p>
本事業の対象とする空白地域の状況	<p>県内13市のうち、12市には市国際交流協会又は地域のボランティア団体主催の日本語教室があるが、伊達市には、平成27年12月末において約300人の外国出身県民がいるにもかかわらず日本語教室はなかった。同市には、平成23年まで地域のボランティアによる日本語教室があったが、現在では活動しておらず、日本語を学ぼうとする外国出身県民は、近隣の市や町の日本語教室に通っていた。</p> <p>伊達市国際交流協会からは、当協会に対し日本語教室の開設を考えているがそのノウハウがないという相談が寄せられていた。</p>
事業内容の概要	<p>取組1 既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアのスキルアップ研修会</p> <p>○目標 県内の日本語教室の学習者に対し、そのニーズに合った内容の生活に役立つ日本語を学習する場を提供する。また、先進的な指導を行う指導者による講習を行うことにより、日本語ボランティアのスキルアップに繋げる。</p> <p>○対象者 県内の日本語教室に通う学習者及び日本語ボランティア</p> <p>○内容及び方法 各日本語教室の学習者が希望する内容について、文化庁のテキストを活用し、先進的な指導を行う指導者による講座を行った。学習者に対する講座は午前中に実施し、その際、日本語ボランティアに参加してもらうことにより先進的な指導方法等について学んでもらった。</p> <p>午後は、日本語ボランティアを対象に、午前中に指導者が実施した講座から学んだことの共有や疑問点の解消等を行うとともに、先進的かつ実践的な指導方法を学ぶことで、日本語ボランティアのスキルとモチベーションの向上を図り、今後の日本語教室の活動の充実・拡大につなげてもらった。</p> <p>取組2 新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会</p> <p>○目標 日本語を学ぶ機会が少ない外国出身県民に、生活に役立つ日本語を学ぶ場を提供するとともに、地域の日本語ボランティア希望者にも日本語講座に参加してもらうことで、日本語学習に携わる意欲を喚起し、指導方法を習得してもらう。</p> <p>伊達市国際交流協会については、本講習会を共催で運営することによって日本語教室運営に関する様々なノウハウを学ぶことにより、将来的な日本語教室開設に繋げてもらう。</p> <p>○対象者 伊達市及びその近辺に居住する日本語学習を希望する外国出身者及び日本語ボランティア希望者</p> <p>○内容及び方法 日本語学習者が希望する内容について、文化庁のテキストを活用して、指導者による日本語講座を行った。日本語講座では、日本語ボランティア希望者にも参加してもらった。</p> <p>また、日本語ボランティア希望者を対象に、指導者による養成講座を実施し、日本語ボランティアの養成を行った。これにより、伊達市国際交流協会が将来的に日本語教室を開設できるよう支援した。</p> <p>なお、学習者希望者と同時に、今後指導に携わる日本語ボランティアについても募集した。</p> <p>取組3 外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座</p> <p>○目標 日本語を学習する機会が少ない外国出身者コミュニティのメンバーに、生活に役立つ実用的な日本語を学習する機会を提供する。特に、普段地域の日本語教室へ通っていないメンバーに対しては、日本語学習の成果を実感してもらうことで、今後の学習意欲の向上に結び付ける。また、必要に応じて学習のテーマに通じた講師を自治体や地域から招き、実技や実習を交えることで、学習した内容に関する理解を一層深めるとともに、地域との連携構築の手がかりとする。</p> <p>○対象者 県内の外国出身者コミュニティのメンバー</p> <p>○内容及び方法 各コミュニティが日本語の習得を希望する生活に関連するテーマについて、文化庁のテキストを活用して日本語講座を行った。講座は、原則として、前半・後半に分けて行い、前半はテーマの必要に応じて自治体等から講師を招き、日本語指導者と講師で、テーマに関連する実技や実習等を行い、後半は日本語の習得を中心とした。</p> <p>取組4 日本語教育活動成果発表セミナー</p> <p>○目標 1～3の事業を実施した中から、特にすぐれた取組や手法等の成果について、県内の日本語教育に携わっている人や県民に対して広く発信し、県内の日本語教育のレベルアップを図るとともに日本語教育の重要性についての理解を得る。</p> <p>○対象者 県内の日本語教室で指導に携わる日本語ボランティア及び一般県民</p> <p>○内容及び方法 1～3の事業に実際に携わった指導者等から、特にすぐれた取組や成果のあった手法について発表するとともに、日本語を習得し地域で活躍している外国出身者から日本語学習の大切さについての話を聞くセミナーを開催した。</p>
事業の実施期間	平成28年5月11日～平成29年3月20日 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	井本 亮	福島大学経済経営学類教授
2	大寺 正晃	須賀川多文化共生ネット代表
3	何 敏	福島大学国際交流センター副センター長
4	米勢 治子	東海日本語ネットワーク副代表
5	幕田 順子	公益財団法人福島県国際交流協会主任主査(本事業担当者)
6	菅本 裕介	公益財団法人福島県国際交流協会主事(本事業担当者)
7	日下部 喜美子	蓬萊日本語教室代表(本事業コーディネーター)



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年6月3日 (金) 13:00～14:30	1.5時間	福島県国際交流協会	井本亮、大寺正晃、 米勢治子、幕田順子、 菅本裕介、日下部喜美子	1 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育についての概要説明 2 ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業の概要説明 3 各取組についての協議 ○ 取組1「既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアのスキルアップ研修会」 ○ 取組2「新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会」 ○ 取組3「外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座」
2	平成28年8月3日 (水) 13:00～14:30	1.5時間	福島県国際交流協会	井本亮、大寺正晃、 米勢治子、幕田順子、 菅本裕介、日下部喜美子	1 報告 ○ 取組1「既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアのスキルアップ研修会」 2 各取組についての協議 ○ 取組2「新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会」 ○ 取組3「外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座」
3	平成29年2月9日 (木) 13:30～15:30	2時間	福島県国際交流協会	井本亮、大寺正晃、 何敏、米勢治子、 幕田順子	1 各取組の報告 ○ 取組1「既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアのスキルアップ研修会」 ○ 取組2「新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会」 ○ 取組3「外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座」 2 協議 ○ 取組4「日本語教育活動成果セミナー」 3 成果の取りまとめ及び事業の評価 4 今後の予定について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p>県内の市町村国際交流協会、日本語教室、外国出身者コミュニティ等と連携して、事業の詳細の調整、準備、広報、当日の運営等を行った。</p> <p>外国出身者コミュニティの日本語講座では、学習テーマに関連した実技・実習を交えて学習効果を高めるため、また、地域と連携した取組とするため、必要に応じて消防署等生活する上で不可欠又は身近な各種団体等から講師を招くなどした。</p> <p>その他、地元の大学など様々な機関との連携の可能性について検討した。</p> <p>各取組において連携した関係機関・団体等及び連携の内容は下記のとおりである。</p> <p>【取組1】 連携機関・団体等：蓬萊日本語教室、国際交流の会・かのみあ、郡山市国際交流協会、会津若松市国際交流協会、(公財)いわき市国際交流協会 連携内容：事業の詳細の調整、準備、広報、当日の運営等</p> <p>【取組2】 連携機関・団体等：伊達市国際交流協会 連携内容：事業の詳細の調整、準備、広報、当日の運営等</p> <p>【取組3】 連携機関・団体等：いわき市内のタイ出身者コミュニティ、日中文化ふれあいの会幸福、コムニタス福島インドネシア、つばさー日中ハーフ支援会、福島中国伝統文化愛好会、ハワクマイ福島、福島市内の中国出身者コミュニティ、福島多文化団体「心ノ橋」、チャイナドレスの会福島支部、郡山教会に集う外国出身者コミュニティ 連携内容：事業の詳細の調整、準備、広報、当日の運営等</p> <p>連携機関・団体等：平消防署、(株)ひまわりキャリアサービス、福島消防署、NPO法人ウェブストーリー、味乃桃の井、東日本学院、健康と食育の会、(株)エクラ・エテルネル、郡山消防署 連携内容：講師の派遣</p> <p>【取組4】 連携機関・団体等：県内33の日本語教室と23の市町村国際交流協会 連携内容：広報協力、参加</p>
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<p>事業責任者は、本事業全体を掌理し、運営委員会委員、コーディネーター等の委嘱を行うとともに、運営委員会の助言や関係機関との連携により事業を効果的かつ適切に管理し実施した。</p> <p>事業担当者は、事業責任者の命を受け、コーディネーターの指揮監督を行った。</p> <p>コーディネーターは、各取組の実施に向けて、事業企画書の作成、連携団体、指導者、講師等との連絡調整、資料作成、当日の運営、事業報告書の作成等を行った。</p>
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞									
取組1	取組の名称	既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアスキルアップ研修会							
	取組の目標	県内の日本語教室の学習者に対し、そのニーズに合った内容の生活に役立つ日本語を先進的な指導方法により学習する場を提供することにより、学習者の実用的な日本語の習得及び学習意欲の向上を図るとともに、さらに日本語ボランティアを対象とした研修会を行うことにより、日本語ボランティアのスキルアップやモチベーションの向上を図り、今後の日本語教室の活動の拡充につなげる。							
	取組の内容	<p>既存の日本語教室を会場として、午前は、各日本語教室の学習者が希望する内容について、文化庁のテキストを活用し、先進的な指導を行う指導者による日本語講座を行った。その際、日本語ボランティアにも参加する機会を提供し、指導の内容、手法等について学んでもらった。</p> <p>午後は、日本語ボランティアを対象とした研修会を開催し、午前中に指導者が実施した日本語講座から学んだことの共有、疑問点の解消等を行った。</p> <p>(既存の日本語教室における生活に役立つ日本語講座)</p> <p>○実施時期 平成28年6月12日～平成28年7月20日</p> <p>○実施回数 5回(各教室1回)</p> <p>○実施時間(原則として、午前に実施) 2時間/回</p> <p>○実施方法</p> <p>①コーディネーターは、当該事業を実施する日本語教室と、学習者が学習したいテーマ、講座の実施日時等を調整した。</p> <p>②コーディネーターは、決定したテーマについて担当する指導者と打合せを行い、講座の進め方等の方針、使用テキスト等を決定した。なお、指導者は指導経験や実績が豊富な者とした。</p> <p>③指導者は、運営委員会による助言を踏まえ、講座案を作成し、当日の講座における指導を行った。</p> <p>④コーディネーターは、当日の日本語講座を運営し、その実施結果を取りまとめ、事業担当者に報告した。</p> <p>(日本語ボランティアスキルアップ研修会)</p> <p>○実施時期及び実施回数 上記日本語講座に同じ</p> <p>○実施時間(日本語講座の実施日の午後に実施) 3時間/回</p> <p>○実施方法</p> <p>①コーディネーターは、日本語講座を担当した指導者と打合せを行い、研修会の進め方等の方針、使用教材等を決定した。</p> <p>②指導者は、運営委員会による助言を踏まえ、研修案を作成し、当日の研修会における指導を行った。</p> <p>③コーディネーターは、当日の研修会を運営し、その実施結果を取りまとめ、事業担当者に報告した。</p>							
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備	日本語ボランティアが、普段行っている日本語教育とは異なる内容の先進的な日本語学習の場に参加し、さらにスキルアップ研修会に参加することで、今後の日本語教室でのモチベーションの向上と指導手法の改善につなげることができた。これにより、本県の日本語教室の質の向上が図られ、充実した日本語教育の体制が整備された。							
	取組による日本語能力の向上	学習者が必要としている生活に直結した役立つ日本語を学習することができた。さらに、実用的な日本語の習得により学習効果が即時実感できたことで、学習意欲の向上が図られた。							
	参加対象者	県内の日本語教室に通う学習者及び日本語ボランティア	参加者数 (内 外国人数)	170人 (53人)					
	広報及び募集方法	講座を実施する日本語教室主催者の連絡網等による広報・募集を行った。 なお、ボランティアスキルアップ研修会の参加者募集は、チラシを作成し、県内の日本語教室、市町村国際交流協会、市町村国際交流担当窓口、福島県教育委員会日本語学習支援ボランティア等に配布した他、当協会ホームページ、facebook、ツイッターで広報した。							
	開催時間数	日本語講座 各回2時間×5会場＝10時間 日本語ボランティアスキルアップ研修会 各回3時間×5会場＝15時間							
	主な連携・協働先	会津若松市国際交流協会、郡山市国際交流協会、(公財)いわき市国際交流協会、蓬萊日本語教室、国際交流の会・かるみあ							
開催場所	講座を実施する日本語教室が通常使用する公的機関の会議室等								
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
	10人	7人	1人	-	17人	1人	8人	-	
アメリカ合衆国3人、カンボジア2人、ドイツ2人、エジプト1人、チリ1人、日本117人									

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	6月12日(日) 10:00~16:00	日本語講座時間数:2時間 研修会時間数:3時間	蓬莱学習センター分館第1講義室(福島市)	日本語講座受講者数:6人 研修会参加者数:20人	あいさつと自己紹介	○日本語講座 自己紹介/話す内容を考える/場面にあわせたあいさつ/母語のあいさつを紹介/振り返りシートの記入 ○研修会 モデル事業の振り返り/文化庁のカリキュラム案について/活動例の紹介	米勢治子 (東海日本語ネットワーク副代表)	
2	6月13日(月) 10:00~16:00	日本語講座時間数:2時間 研修会時間数:3時間	郡山市総合福祉センター技能習得室(郡山市)	日本語講座受講者数:6人 研修会参加者数:27人	防災	○日本語講座 地震時何をするか話し合う/家から避難所までの経路の地図を書く/災害時の連絡方法を話し合う/振り返りシートの記入 ○研修会 モデル事業の振り返り/文化庁のカリキュラム案について/活動を考える/活動例の紹介	米勢治子 (東海日本語ネットワーク副代表)	
3	6月30日(木) 10:00~16:00	日本語講座時間数:2時間 研修会時間数:3時間	郡山市総合福祉センター技能習得室(郡山市)	日本語講座受講者数:7人 研修会参加者数:25人	人とのつながり(情報を収集・発信する)	○日本語講座 自己紹介/防災マップで自分の家を見つける/災害情報をやさしい日本語になおす/絵本を母語で読む ○研修会 日本語講座の振り返り/『生活者としての外国人のための日本語教育』について/言葉を獲得していく方法について/活動プログラムを作る	芳賀洋子 (地球っ子クラブ2000代表)	
4	7月2日(土) 10:00~16:00	日本語講座時間数:2時間 研修会時間数:3時間	会津若松市生涯学習総合センター(会津稲古堂)和室1・2(会津若松市)	日本語講座受講者数:9人 研修会参加者数:29人	防災	○日本語講座 自己紹介/電話で発信するための日本語/朝起きて何をするかを発表/絵本を母語で読む ○研修会 日本語講座の振り返り/『生活者としての外国人のための日本語教育』について/言葉を獲得していく方法について/活動プログラムを作る	芳賀洋子 (地球っ子クラブ2000代表)	
5	7月20日(水) 10:00~16:00	日本語講座時間数:2時間 研修会時間数:3時間	いわき市生涯学習プラザ中会議室(いわき市)	日本語講座受講者数:25人 研修会参加者数:16人	防災	○日本語講座 自己紹介/緊急地震速報を聞く/防災マップを見る/備蓄品チェックリストを作る/助けを求める日本語 ○研修会 社会参加につながる学習支援活動/日本語講座の振り返り/『生活者としての外国人のための日本語教育』について/支援者の役割	品田潤子 (公社)国際日本語普及協会 教師会員	

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【1回 平成28年6月12日】

- 日本語講座(10:00~12:00)
 - 席を立ち、互いに自己紹介をした。
 - 自己紹介でどのような言葉を使ったか、何を話したかについて話し合った。
 - 学習者から母語のあいさつ言葉を教えてもらった。
 - もっと仲良くなるための3つの質問について話し合った。
 - ふりかえりシートに記入し共有した。
 - 席を立ち全員と話した後、気づきについて共有した。
- 日本語ボランティアスキルアップ研修会(13:00~16:00)
 - 日本語講座の振り返り
 - 現在の活動との共通点やそれぞれのメリット、午前の中で疑問に思ったことなどを付箋に書きだし、カテゴリー別に分けた。
 - 講師から文化庁のカリキュラム案や活動のためのチェックリスト、テーマ例の紹介があった。
 - 本日の研修の振り返り、質疑応答の後、講師から活動例の紹介があった。



○取組事例②

【5回 平成28年7月20日】

- 日本語講座(10:00~12:00)
 - タッピング50音表を使って自分の名前を音と文字を確認しながら、自己紹介をした。
 - 緊急地震速報が流れたらどうするかを話し合った。
 - 「洪水」「津波」など様々な災害の名称やテレビの津波警報と色の関係を確認した。
 - 防災マップで、自分の住んでいる地区やその避難所、どんな災害の危険があるかを確認した。
 - 備蓄品チェックリストを作成した。
 - 地震で家に閉じ込められた場合などの緊急事態の時に助けを求める日本語を確認した。
 - 今日の復習をした。
- 日本語ボランティアスキルアップ研修会(13:00~16:00)
 - 社会参加につながる学習支援活動について紹介した。
 - 午前中の日本語講座の振り返りをし、活動の内容を確認した。
 - 『生活者としての外国人』の日本語教育に沿って、日本語教室活動を振り返った。
 - 支援者の役割について確認した。
 - 県協会作成のSOSカードを実際に使い日本人に声かける時の言い方を考えた。



(2) 目標の達成状況・成果

<日本語講座>

評価方法

第1回運営委員会で決定したとおり、後日「共催団体へのアンケート」を実施し、下記の観点で事業評価を行った。

- ① 学習者は、テーマに関して学習したことができるようになったか。
アンケート結果によれば5点満点のところ平均4.8点でかなり高く、ほとんどの学習者がテーマに関して学習したことができるようになったと考えられる。
- ② 学習者は、日本語の学習意欲が高まったか。
アンケート結果の平均は4.4点であるが、学習者数の増加や学習者の自信がついた等のコメントがあり、学習者の日本語の学習意欲が高まったと考えられる。
- ③ モデル講座は、今後の教室での活動の参考となったか。
アンケート結果の平均は4.6点でかなり高い。コメントでは、日本語を語学として教えるのではなく生活者として使う日本語としてコミュニケーションを重視して指導することや、学習者が力を発揮できる教室運営を行うこと、振り返りシートが有効であること等を認識したとの声が寄せられており、本事業による日本語講座が、日本語教室での活動の参考となったと考えられる。

<日本語ボランティアのスキルアップ研修会>

評価方法

研修会当日「参加者へのアンケート」を実施し、下記の観点について事業評価を行った。

- ① 参加者は、「『生活者としての外国人』のための日本語教育」の内容が理解できたか。
アンケート結果によれば5点満点のところ平均4.3～4.7点でかなり高かった。実践的な日本語を学習することや社会生活ができるようになることを目的とすることが重要であることを認識しており、参加者は内容を概ね理解できたと考えられる。
- ② 参加者は、日本語教育への意欲、関心が以前よりも高まったか。
アンケート結果によれば5点満点のところ平均4.2～4.7点であり、参加者の日本語教育への意欲、関心が以前よりもかなり高まったと考えられる。
- ③ 参加者は、研修した内容を自身の日本語教育活動に活かそうと思ったか。
アンケート結果によれば5点満点のところ平均4.4～4.8点であり、かなりの参加者が研修した内容を自身の日本語教育活動に活かそうとしていると考えられる。

(3) 今後の改善点について

- ・「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念に基づく日本語活動では、指導者側に学習者の発話を促すスキルが必要であるが、まだ十分な研修を提供したとは言えないため、今後も引き続き研修会を実施していく必要がある。
- ・今回実施した教室は県内33教室のうち5教室であるため、他の教室でも実施し、「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念に基づく日本語教室運営を県全体へ広く普及を図る必要がある。

<取組2>

取組2	取組の名称		新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講習会						
	取組の目標		伊達市において、日本語を学ぶ機会が少ない外国出身県民に生活に役立つ日本語を学ぶ場を提供するとともに、地域の日本語ボランティア希望者にも日本語講座に参加してもらうことで、日本語学習に携わる意欲を喚起し指導方法を習得してもらう。 伊達市国際交流協会については、本講習会を共催で運営することによって日本語教室運営に関する様々なノウハウを学ぶことで、将来的な日本語教室開設につなげてもらう。						
	取組の内容		<p>日本語学習者に対し、文化庁のテキスト活用して指導者による日本語講座を行った。日本語ボランティア希望者に対しては、日本語講座の前後に養成講座を行うとともに、日本語講座にも参加してもらった。これにより、伊達市国際交流協会が将来的に日本語教室を開催できるよう支援した。</p> <p>なお、学習希望者と日本語ボランティア希望者は、同時に募集している。</p> <p>また、日本語講座の内容、使用する教材、指導の方法等については、コーディネーター、事業担当者及び講座担当指導者からなる指導者等会議で詳細を決定した。</p> <p>(指導者等会議の日程と内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回: 8月21日(第2回運営委員会の開催後) 指導者顔合わせ、運営委員会の助言を踏まえた今後の進め方及び担当日本語講習会の決定 ・第2回: 9月14日 各指導者による担当日本語講習会の教案の持ち寄り、検討、修正 ・第3回: 1月29日(第3回運営委員会の開催前) 実施した日本語講習会の検証、今後取組むべき課題及びその対応についての検討 <p>(会議出席者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター、事業担当者、指導者 <p>(学習者向け日本語講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施時期 平成28年10月8日～平成28年11月15日 ○実施回数 7回 ○実施時間 2時間/回 ○実施方法 <p>①コーディネーターは、伊達市国際交流協会と外国出身者が学習したいテーマ、日本語講座の実施日時等を調整した。なお、伊達市国際交流協会は、学習テーマの調整に先立ち外国出身者のニーズを調査した。</p> <p>②指導者等会議を開催し、日本語講座の進め方等の方針、使用テキスト等を決定した。なお、指導者は、県内の日本語教室において指導経験や実績が豊富な者とし、よりきめ細かな指導ができるよう2名体制とした。</p> <p>③指導者は、運営委員会による助言及び指導者等会議の結果を踏まえ、日本語講座案を作成し、当日の日本語講座における指導を行った。</p> <p>④コーディネーターは、当日の講習会を運営し、その実施結果を取りまとめ、事業担当者に報告した。</p> <p>(日本語ボランティア養成講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施時期及び実施回数 学習者向け日本語講座と同じ ○実施時間 1回目のみ2時間、2回目以降は日本語講座の前に30分、後に15分。 ○実施方法 <p>①指導者等会議を開催し、養成講座の進め方等の方針、使用教材等を決定した。</p> <p>②指導者は、運営委員会による助言及び指導者等会議の結果を踏まえ、養成講座案を作成し、当日の養成講座における指導を行った。</p> <p>③コーディネーターは、当日の養成講座を運営し、その実施結果を取りまとめ、事業担当者に報告した。</p>						
	<input checked="" type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	※取組2は空白地対象						
	取組による体制整備		当協会と伊達市国際交流協会とが本講習会を共催で運営することにより、伊達市国際交流協会は日本語教室運営に関する様々なノウハウを学ぶことができ、日本語教室開設につなげることができた。また、併せて日本語ボランティア養成講座を実施することにより、日本語教室開設に向けた日本語ボランティアの確保及び資質向上が図られ、開設に向けた着実な体制整備につながった。						
	取組による日本語能力の向上		これまで福島市等の近隣市町村に通っていた外国出身者の負担を減らし、利便性が高く継続的な学習の場を提供することができた。また、生活に役立つ実用的な日本語の学習により学習効果を即時実感することが可能となり、外国出身者の日本語学習への関心が高まるとともに、日本語習得への意欲の継続・向上につながった。						
	参加対象者		伊達市及びその近辺に居住する日本語学習を希望する外国出身者及び日本語ボランティア希望者	参加者数 (内 外国人数)		日本語講座 24人(24人) 日本語ボランティア養成講座 22人(2人)			
	広報及び募集方法		当協会HP及び伊達市の市政だよりへの掲載、伊達市国際交流協会会員からの口コミ等による広報・募集						
	開催時間数		日本語講座 2時間×7回=14時間 ボランティア養成講座 2時間×1回+45分×6回=6.5時間						
	主な連携・協働先		伊達市国際交流協会						
開催場所		伊達市役所本庁舎1階 シルクホール							
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		19人	-	-	3人	2人	-	-	-
		アメリカ合衆国2人、日本人20人							

実施内容								
日本語講座								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	10月8日(土) 13:30~15:30	2時間	伊達市役所 シルクホール	14人	自己紹介	初対面の人と自己紹介をして話題を膨らます／自己紹介文を書く	佐々木千賀子 菊地紀子	
2	10月11日(火) 19:00~21:00	2時間	伊達市役所 シルクホール	13人	故郷を紹介する	出身国を言う／相手の故郷を尋ねる／故郷を紹介する「～が有名です」「日本の～のような～」	佐々木千賀子 菊地紀子	
3	10月18日(火) 19:00~21:00	2時間	伊達市役所 シルクホール	12人	家族について話す	サバイバルな日本語(すぐに使えるフレーズ)／家族の呼称／性格に関する語彙	佐々木千賀子 菊地紀子	
4	10月29日(土) 13:30~15:30	2時間	伊達市役所 シルクホール	13人	マナー・ルール	マナー違反を指摘する語彙、否定の表現／それぞれの国のマナーやルールを話す	佐々木千賀子	
5	11月1日(火) 19:00~21:00	2時間	伊達市役所 シルクホール	13人	体調・健康	体調を伝える「元気です(じゃないです)」「痛い」「かゆい」／体の部位／健康についての助言をする「～で(ないで)ください」「～た(ない)ほうがいいです」	佐々木千賀子 菊地紀子	
6	11月5日(土) 13:30~15:30	2時間	伊達市役所 シルクホール	13人	プレゼント～授受表現	「いつ・だれに・なにを」「あげます・もらいます」／「あげました」「もらいました」	菊地紀子	
7	11月15日(火) 19:00~21:00	2時間	伊達市役所 シルクホール	13人	感情表現	「～てびっくりしました」／様々な感情表現とその原因を言う／7回の講座を振り返って寄せ書きを書く／おしゃべりのためのお茶会	佐々木千賀子 菊地紀子	
日本語ボランティア養成講座								
1	10月8日(土) 10:00~12:00	2時間	伊達市役所 シルクホール	19人	ボランティア養成講座	地域の外国出身者が日本語教室に来る目的／ボランティアの心構え／テキストの紹介	佐々木千賀子 菊地紀子	
2	10月11日(火) 18:30~19:00 21:00~21:15	45分	伊達市役所 シルクホール	15人	ボランティア養成講座	ファシリテーターがいる日本語講座の進め方／「やさしい日本語」とは／日本語を直接法で教える工夫	佐々木千賀子 菊地紀子	
3	10月18日(火) 18:30~19:00 21:00~21:15	45分	伊達市役所 シルクホール	12人	ボランティア養成講座	サバイバルな日本語(すぐに使えるフレーズ)／家族の呼称／性格に関する語彙	佐々木千賀子 菊地紀子	
4	10月29日(土) 13:00~13:30 15:30~15:45	45分	伊達市役所 シルクホール	13人	ボランティア養成講座	前回の授業の振り返り／特殊音の指導法／非言語でのコミュニケーション／次回の進め方の説明	佐々木千賀子	
5	11月1日(火) 18:30~19:00 21:00~21:15	45分	伊達市役所 シルクホール	13人	ボランティア養成講座	前回の授業の振り返り／日本語学習内容の目的とその成果を意識した指導の仕方	佐々木千賀子 菊地紀子	
6	11月5日(土) 13:00~13:30 15:30~15:45	45分	伊達市役所 シルクホール	13人	ボランティア養成講座	ゼロレベルの学習者への対応／学習者の発話の誤りの訂正の仕方	菊地紀子	
7	11月15日(火) 18:30~19:00 21:00~21:15	45分	伊達市役所 シルクホール	15人	ボランティア養成講座	前回の振り返り／今回の授業の目的の確認／学習者のレベルに合わせた表現の提示	佐々木千賀子 菊地紀子	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成28年10月8日】

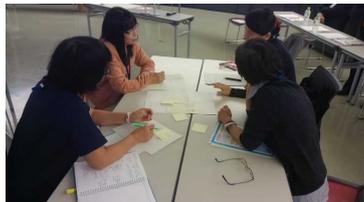
＜日本語ボランティア養成講座＞(グループ活動)

- ・ 参加者が自己紹介し、参加の動機などを共有した。
- ・ 伊達市の外国人の現状について学んだ。
- ・ 外国人はどのような目的で日本語教室に来るか、ボランティアは学習者にどんなことができるかについて話し合った。
- ・ 地域の日本語教室での日本語教育と学校での英語教育の違いを学んだ。
- ・ ボランティアとして気を付けたいことについて話し合った。

＜日本語講座＞

学習者とボランティアがそれぞれ2～3人ずつのグループになり、ボランティアは指導者のファシリテーションのもと、学習者の日本語学習をサポートした。以降、この手法ですべての日本語講座を実施した。

- ・ グループ内で自己紹介をした。「はじめまして。〇〇です。どうぞ、よろしくお願いします。」
- ・ 今後の教室で使う名札を作った。
- ・ もっと親しくなるためにどんな質問をするかを考えて、質問してみた。
- ・ 自分が書ける範囲で自己紹介文を書いた。
- ・ 書いた自己紹介文を発表した。
- ・ 振り返りシートに記入した。



○取組事例②

【第7回 平成28年11月15日】

＜日本語ボランティア養成講座＞

(日本語講座前)

- ・ 前回の講座「授受表現」の教え方について確認した。
- ・ 気持ちの原因・理由を表す場合、「〇〇(名詞)でびっくりしました」「〇〇(動詞)でびっくりしました」「〇〇(動詞)からびっくりしました」の用法があることを学んだ。

(日本語講座後)

- ・ 日本語ボランティアとして継続して活動するための秘訣を学んだ。

＜日本語講座＞

- ・ 日本語学習の一環として全員で会場設営をした。
- ・ グループ分けを行い、グループ内で自己紹介した。
- ・ 今日の日付と、色を表す日本語を確認後、グループの色を決めた。
- ・ 「〇〇してびっくりしました」という文を練習して、グループでびっくりした感情とその状況を話し合った。
- ・ さまざまな感情表現を確認した。
- ・ 感情表現を使ってトライアル日本語教室の感想を発表した。
- ・ 寄せ書きにメッセージを書いた。
- ・ 振り返りシートを記入した。
- ・ ボランティアと日本語でおしゃべりをするお茶会に参加した。
- ・ 全員で会場を撤収した。



(2) 目標の達成状況・成果

評価方法

学習者及び日本語ボランティアについては取組1と同様に検証した。

伊達市における日本語教室の開設については、本取組終了後1～2年度以内に、伊達市内での日本語教室開設の有無や課題等について追跡調査して検証することとしていた。

成果

伊達市において、日本語ボランティア養成講座を受講したボランティアにより、平成28年12月に任意団体が設立され、翌月から「外国人のための日本語教室」が開設された。

＜日本語講座＞

① 学習者は、テーマに関して学習したことができるようになったか。

アンケート結果によれば、本事業による日本語講座を受講する前より、「日本語が上手になったと思うか」については参加者9名全員が、「日本での生活ができるようになったと思うか」については9名中8名が「そう思う」と回答しており、また、多くの表現を学んだことなどを評価する声寄せられたことから、ほとんどの学習者が、テーマに関して学習したことができるようになったと思われる。

② 学習者は、日本語の学習意欲が高まったか。

アンケート結果によれば、「もっと日本語を勉強したいと思うか」という設問に対し参加者9名全員が「思う」と回答しており、また、学習機会の継続を要望する声寄せられたことから、学習者の日本語の学習意欲が高まったと考えられる。

＜日本語ボランティア養成講座＞

① 参加者は、「『生活者としての外国人』のための日本語教育」の内容が理解できたか。

アンケート結果によれば5点満点のところ平均4.7点であり、参加者は内容を概ね理解できたと考えられる。

② 参加者は、日本語教育への意欲、関心が高まったか。

アンケート結果によれば5点満点のところ平均4.2点であり、ボランティアを始める心構えができたという声寄せられるなど、参加者の日本語教育への意欲、関心が高まったと考えられる。

(3) 今後の改善点について

- ・ 日本語ボランティアによる日本語教室が立ち上げられたが、今後も継続してより充実した活動ができるよう、求めに応じて支援していく必要がある。
- ・ 伊達市以外の日本語教室空白地域で、今回のノウハウを活かしその地域での開設に向けた取組をしていく必要がある。

<取組3>

取組3	取組の名称	外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座						
	取組の目標	日本語を学習する機会が少ない外国出身者コミュニティのメンバーに、生活に役立つ実用的な日本語を学習する機会を提供し、特に普段地域の日本語教室へ通っていないメンバーについては、日本語学習の成果を実感してもらうことで、今後の学習意欲の向上に結び付ける。また、必要に応じて学習のテーマに通じた講師を自治体や地域から招き、実技や実習を交えることで、学習した内容に関する理解を一層深めるとともに、外国出身者コミュニティと地域との連携の構築を図る。						
	取組の内容	<p>各コミュニティが日本語の習得を希望する生活に関連するテーマについて、文化庁のテキストを活用し、日本語講座を行った。</p> <p>講座は、前半・後半に分けて行った。前半はテーマの必要に応じて自治体等から講師を招き、日本語指導者と講師とでテーマに関連する実技や実習等を行い、後半は日本語の習得を行った。</p> <p>また、講座の内容、使用する教材、指導の方法等については、コーディネーター、事業担当者及び講座担当指導者から成る指導者等会議で詳細を決定した。</p> <p>(指導者等会議の日程と内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回: 8月21日(第2回運営委員会の開催後) 指導者顔合わせ、運営委員会の助言を踏まえた今後の進め方及び担当講座の決定 ・第2回: 9月14日 各指導者による担当講座の教案の持ち寄り、検討、修正 ・第3回: 1月29日(第3回運営委員会の開催前) 実施した講座の検証、今後取組むべき課題及びその対応についての検討(会議出席者) ・コーディネーター、事業担当者、指導者 						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動						
	取組による体制整備	日本語を学習した外国出身者コミュニティのメンバーは、ニーズに合った日本語を学習しその学習効果を実感することで、日本語を主体的に学習しようという意欲が向上し、外国出身者コミュニティ自らの活動の一つとして日本語学習の機会を持つという意欲につながった。						
	取組による日本語能力の向上	学習者が学びたいテーマに沿った生活する上で役立つ日本語を学ぶことができたため、外国出身者の日本語能力及び学習意欲の向上につながった。						
	参加対象者	県内の外国出身者コミュニティのメンバー	参加者数 (内 外国人数)	130人 (130人)				
	広報及び募集方法	外国出身者コミュニティのキーパーソンを通じたSNS等による広報・募集、当協会及び市町村国際交流協会からのメーリングリスト・メルマガによる広報。						
	開催時間数	計37時間						
	主な連携・協働先	<ul style="list-style-type: none"> ① 9月22日 いわき市内のタイ出身者コミュニティ、(公財)いわき市国際交流協会(共催)、平消防署 ② 10月2日 日中文化ふれあいの会幸福、(株)ひまわりキャリアサービス ③ 10月16日 コムニタス福島インドネシア、福島消防署 ④ 10月30日 つばさー日中ハーフ支援会、NPO法人ウェブストーリー ⑤ 11月6日 福島中国伝統文化愛好会、(株)ひまわりキャリアサービス ⑥ 11月13日 ハワクカマイ福島、味乃桃の井(割烹) ⑦ 12月4日 福島市内の中国出身者コミュニティ、東日本学院 ⑧ 12月17日 福島多文化団体「心ノ橋」(中国出身者)、健康と食育の会 ⑨ 12月18日 チャイナドレスの会福島支部、(公財)いわき市国際交流協会、(株)エクラ・エテルネル ⑩ 1月22日 郡山教会に集う外国出身者コミュニティ、郡山消防署 						
開催場所	<ul style="list-style-type: none"> ① 9月22日 いわき市文化センター ② 10月2日 郡山市中央公民館 ③ 10月16日 福島市アクティブシニアセンターA・O・Z ④ 10月30日 NPO法人ウェブストーリー事務所 ⑤ 11月6日 福島市吉井田学習センター ⑥ 11月13日 福島市市民会館 ⑦ 12月4日 福島市蓬萊学習センター ⑧ 12月17日 いわき市文化センター ⑨ 12月18日 いわき市生涯学習センター ⑩ 1月22日 カトリック郡山教会 							
参加者の出身・国別内訳(人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	88人	6人	-	-	20人	4人	7人	-
カンボジア2人、ロシア1人、マレーシア1人、イギリス人1人								

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	9月22日(木) 10:00~15:00	5時間	いわき市文化センター(いわき市)	8人	救急時の日本語	実技:119番通報の仕方/心肺蘇生法(AED含む) 日本語指導:日本語の意味の確認/緊急連絡先の記入/様々な緊急の場面で必要な日本語/AEDガイダンスの聞き取り	谷明子 佐々木千賀子	
2	10月2日(日) 13:00~16:00	3時間	郡山市中央公民館(郡山市)	16人	仕事上で使う日本語	実技:マナー講座 日本語指導:日本語の意味の確認/電話対応の練習	青山孝男 三田真理子	
3	10月16日(日) 10:30~13:30	3時間	福島市アクティビティセンターA・O・Z(福島市)	7人	救急時の日本語	実技:119番通報の仕方/心肺蘇生法(AED含む) 日本語指導:日本語の意味の確認/緊急連絡先の記入	青山孝男 三田真理子	
4	10月30日(日) 10:00~15:00	5時間	NPO法人ウェブストーリー事務所(郡山市)	10人	日本語のチラシをパソコンで作るための日本語	実技:パソコン操作の指導/ローマ字入力の練習 日本語指導:パソコン操作の用語、質問のための日本語の確認/チラシに必要な記載事項の確認/日本語の意味の確認/チラシを完成させる/チラシの披露と感想の発表	谷明子 菊地紀子	
5	11月6日(日) 13:00~17:00	4時間	福島市吉井田学習センター(福島市)	28人	仕事上で使う日本語	実技:マナー講座 日本語指導:日本語の意味の確認/電話対応の練習/状況に応じたあいさつ	青山孝男 菊地紀子	
6	11月13日(日) 13:00~16:00	3時間	福島市市民会館(福島市)	10人	料理で使う日本語(ぶり大根)	実技:ぶり大根調理実習 日本語指導:調理に関する日本語の意味の確認	菊地紀子 青山孝男	
7	12月4日(日) 13:00~17:00	4時間	福島市蓬莱学習センター(福島市)	13人	進路相談で使う日本語	講話:高校進学制度について 日本語指導:学校から配布される資料に記載されている言葉の確認/進路希望調査への記入の練習/先生との面談で使うあいさつの練習	三田真理子 谷明子	
8	12月17日(土) 10:00~15:00	5時間	いわき市文化センター(いわき市)	15人	料理で使う日本語(雑煮)	実技:雑煮調理実習・日本の正月について(文化紹介) 日本語指導:日本語の意味の確認とその使い方の練習/調理用具の名前の確認	菊地紀子 日下部喜美子	
9	12月18日(日) 13:00~16:00	3時間	いわき市生涯学習センター(いわき市)	11人	仕事上で使う日本語	実技:マナー講座 日本語指導:日本語の意味の確認/電話対応の練習	三田真理子 青山孝男	
10	1月22日(日) 10:30~12:30	2時間	カトリック郡山教会(郡山市)	12人	救急時の日本語	実技:119番通報の仕方/心肺蘇生法(AED含む) 日本語指導:日本語の意味の確認/緊急連絡先の記入	青山孝男 谷明子	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【平成28年11月6日】
共 催：中国出身者コミュニティ「福島中国伝統文化愛好会」
テーマ：仕事上で使う日本語
内 容：
(1) 導入
・ 講座の流れとねらいを確認した。
(2) 実技
・ 好印象を与える話し方、敬語(尊敬語と謙譲語)、ウチとソトの言葉違い、クッション言葉などを学んだ。
・ 電話応対、お辞儀の仕方及び名刺交換を練習した。
・ 笑顔の作り方を練習した。
・ マナーで悩んでいること、困っていることを参加者同士で話し合った。
(3) 日本語学習
・ 実技でわからなかった日本語「リクルート」「取締役」「地味、派手」などを確認した。
・ 電話での応対に必要な言葉の確認をした後、職場で電話のかけ方、受け方を練習した。
・ 場面に合ったあいさつの言葉を確認した。
(4) まとめ
・ 振り返りシートに、今日覚えた日本語の言葉と文を記入した。



○取組事例②

【平成29年1月22日】
共 催：郡山カトリック教会に集う外国出身者コミュニティ
テーマ：救急時の日本語
内 容：
(1) 導入
・ 講座の流れとねらいを確認した。
(2) 実技
・ 倒れている人を発見した時の初動、119番通報の仕方及び周囲の日本人への助けの求め方を学んだ。
・ 119番通報の方法を練習した後、学習者2人が郡山消防署に電話をかけ、通報訓練を行った。
・ 心肺蘇生法とAEDの使い方を学び、心肺蘇生法(AEDを含む)を練習した。
(3) 日本語
・ 実技でわからなかった日本語「みぞおち」などの確認をした。
・ 人が転んでいる様子などの絵カードを見ながら、119番通報の際の状況説明の練習をした。
・ 周りにはいる日本人に助けをを求める日本語「すみません。助けてください。」を練習した。
(4) まとめ
・ 振り返りシートに今日覚えた日本語の言葉と文を記入した。



(2) 目標の達成状況・成果

評価方法

学習者については取組1と同様に行った。また外国出身者コミュニティと地域との連携については、本取組終了後、当該外国出身者コミュニティが実際に地域と連携した取組に繋がったかどうかを追跡調査して検証することとした。

① 学習者は、テーマに関して学習したことができるようになったか。

アンケート結果によれば、「日本語の勉強がわかったか」、「応急手当の勉強が参考になったか」の設問に対し、5点満点のところそれぞれ平均4.2～4.6点、平均4.6～4.9点であり、また、参加する前よりも「日本語が上手になったか」、「日本での生活ができるようになったか」の設問に対し、概ね肯定する回答をしていることから、学習者がテーマに関して学習したことができるようになったと考えられる。

② 学習者は、日本語の学習意欲が高まったか。

アンケート結果によれば、5点満点のところ平均4.6～4.9点、文化庁から通知のあったアンケート様式に変更した以降も1名を除き全員が「思う」と回答したことから、学習者の日本語の学習意欲が高まったと考えられる。

③ 外国出身者コミュニティが実際に地域と連携した取組に繋がったかどうか。

外国出身者コミュニティが地域の団体と連携して何らかの事業を共同実施したかについては現段階では把握していないが、コミュニティから同じ実技講師から学ぶ勉強会を再度開催したいとの声が聞かれた。

(3) 今後の改善点について

・多くの学習者が講座終了後に「もっと日本語を学びたい」と感じた意欲を、実際の日本語学習につなげるための十分なフォローアップができなかったため、今後は、その具体的な方策を考える必要がある。
・今回実施した外国出身者コミュニティは10か所であるが、今後は他のコミュニティでも実施し、外国出身者の日本語学習意欲の向上を広く図る必要がある。
・外国出身者コミュニティが、地域と連携した取組を自主的に行なったかどうかを、追跡して調査検証する必要がある。

<取組4>

取組4	取組の名称		日本語教育活動成果セミナー						
	取組の目標		外国出身者の日本語教育について、特にすぐれた成果のあった日本語講座の事例を日本語ボランティアに学んでもらうことにより、指導力のアップと日本語教室のより円滑な運営を目指す。また、本セミナーを一般県民に公開することにより、生活者としての外国出身県民にとって、日本語教育が重要であることについて広く理解を求める。						
	取組の内容		<p>県内の日本語教育関係者のみならず、広く一般県民を対象にセミナーを開催し、取組1から取組3により実施した日本語講座等の中から選んだ特にすぐれた取組や手法等の成果について、実際に当該日本語講座等に携わった指導者等が事例を発表した。また、日本語を習得し地域で活躍している外国出身者から、地域で生活者として暮らす上での日本語習得の大切さや自分自身の日本語習得の体験などについて発表してもらった。</p> <p>当取組は、最終回である第3回運営委員会による事業の検証及び総括等を行った後に実施したため、本取組に関する成果の取りまとめ及び事業の評価については、第3回運営委員会で承認を受け、書面による協議で決定した。</p>						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		<p>県民に対し外国出身者への日本語教育の意義や重要性について発信したことで、外国出身県民が日常生活を送る上でどのような日本語を学びたいと考えているか、どのように地域住民と交流したいと考えているか等の理解が深まり、今後の地域での交流の円滑化につながった。</p> <p>さらに、県内の日本語教室関係者が数多く参加したことにより、モデル的な事例を学習したことによる指導方法や運営方法の改善が期待できる。これにより、県内の日本語教室全体のレベルアップが図られ、本県の日本語教育の体制の整備につながった。</p>						
	取組による日本語能力の向上								
	参加対象者		外国出身県民に対する日本語教育に関心のある日本語ボランティア又はボランティア希望者、その他の一般県民、及び日本語学習に関心のある外国出身者等	参加者数 (内 外国人数)		33人(8人)			
	広報及び募集方法		当協会ホームページへの掲載、当協会メールマガジン・SNS等による広報、県内の日本語教室担当者が登録しているメーリングリストによる広報、印刷物の配付、報道機関への投げ込み等による広報・募集						
	開催時間数		3時間						
	主な連携・協働先		23の市町村国際交流協会及び県内33の日本語教室						
開催場所		公益財団法人福島県国際交流協会							
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
	2人	-	1人	-	2人	-	2人	-	
		カンボジア人1人、日本人25人							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年2月25日(土) 13:00~16:00	3時間	(公財)福島県国際交流協会	33人	「私の日本語学習エピソード」 「生活者としての外国人のための日本語教育について」	・事業報告 ・日本語学習体験談の発表 ・パネルディスカッション	-		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

- 【平成29年2月25日】
- 1 開会
 - 2 「ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業」報告
 - 3 日本語学習者の体験談発表
テーマ:「私の日本語学習エピソード」
発表者: ニバ・ゾシさん(ネパール出身 取組1「人とのつながり～情報の収集と発信～」参加)
ベン・スレイニッチさん(カンボジア出身 取組1「自己紹介」、取組3「救急」「進路相談」参加)
三品美華さん(中国出身 取組2「伊達市での日本語講座」参加)
丹野ジュリエッタさん(フィリピン出身 取組3「救急」参加)
斎藤幸子さん(中国出身 取組3「ビジネスマナー」参加)
原バッサダさん(タイ出身 取組3「パソコンでチラシ」参加)
安齋スエナさん(フィリピン出身 取組3「料理」参加)
 - 4 パネルディスカッション
テーマ:「生活者としての外国人のための日本語教育について」
コーディネーター: 井本亮さん(福島大学経済経営学類教授)
パネラー: 三田真理子さん(取組1共催団体 国際交流の会・かるみ代表)
半田誠さん(取組2共催団体 伊達市市民生活部市民協働課副主幹兼協働推進係長)
佐々木千賀子さん(取組2日本語指導者 ふくしま子どもの日本語ネットワーク庶務)
青山孝男さん(取組3日本語指導者 会津若松市国際交流協会理事)
 - 5 閉会



(2) 目標の達成状況・成果

事業評価の方法

参加者に対し、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の重要性についての理解度を測るアンケートを実施し、その結果により検証した。

- ・ 「生活者としての外国人に対する日本語教育への理解が深まったと思うか？」というアンケートに対し、21名回答中、「深まったと思う」と「まあまあ深まったと思う」を合わせると計19名となり、ほとんどの参加者が生活者としての外国人に対する日本語教育への理解を深めたと考えられる。
- ・ 外国出身者の体験談発表は、発表者の日本語力を考慮して一問一答による形式としたことにより、発表内容がわかりやすくなり、発表者及び参加者の両者にとって充実したプログラムとすることができたと考えられる。
- ・ 日本語ボランティアは、7名の学習者が日本語学習に関して普段感じていることを素直に語ったことで、学習者側からみた日本語学習のニーズや日本語教育の方法について知ることができ、今後の活動に活かすことができたと考えられる。
- ・ パネルディスカッションでは、今回の事業に実際に携わったパネラーの率直な意見が出され、次年度以降の事業実施の参考となった。

(3) 今後の改善点について

- ・ 参加者のほとんどが何らかの形で外国人の日本語教育に携わっている方で、一般参加者が少なかったため、PR方法、プログラム内容等の工夫が必要であると考えられる。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

広い県土を有する本県では、外国出身県民が集住しておらず、県内各地に散在して暮らしている。こうした外国出身県民が、日常生活をする上で必要かつすぐに使える実用的な日本語能力を習得できるようにするため、文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教育の教材例集』を基本テキストとし、県内各地の日本語教室や外国人コミュニティの協力を得て日本語教室を開催するとともに、日本語ボランティアを対象としたスキルアップ研修会も併せて実施する。

また、日本語教室空白地域が存在することから、開設に向けたトライアル日本語教室を開催する。

さらには、セミナー等の実施により事業による成果を広く県民と共有し、生活者としての外国出身県民にとって、日本語教育が重要であることへの理解の促進を図ることとする。

こうした県全域への波及効果を視野に入れた総合的な取組により、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制を整備することを目的とする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

1 数値達成状況

下記のとおり、ほぼ計画通り実施できた。

	計画	実績
日本語講座時間数	60時間 取組1(10)+取組2(14)+取組3(36)	61時間 取組1(10)+取組2(14)+取組3(37)
日本語講座参加者数	210人 取組1(50)+取組2(70)+取組3(90)	207人 取組1(53)+取組2(24)+取組3(130)
日本語ボランティアスキルアップ研修会養成講座時間数	29時間 取組1(15)+取組2(14)	21.5時間 取組1(15)+取組2(6.5)
日本語ボランティアスキルアップ研修会・養成講座参加者数	120人 取組1(50)+取組2(70)	139人 取組1(117)+取組2(22)
セミナー時間数	3時間	3時間
セミナー参加者数	40人	33人

2 事業の成果

- ・運営委員会へ、取組1～4について、事業を計画どおりに実施し、かつ、期待される成果を上げたと評価した。
- ・とりわけ取組2に関しては、実際に日本語教室が開設され予想以上の成果があった。
- ・今後も継続して「生活者としての外国人のための日本語教育」の理念の理解と実践が必要であるという課題を明確にすることができた。

(3) 地域との関係性との連携による効果、成果等

取組1

既存の日本語教室と連携して事業を実施したことにより、各日本語教室のボランティアのスキルアップにつながった。

取組2

日本語教室立ち上げのノウハウがなかった伊達市国際交流協会と連携して事業を実施したことにより、新たに立ち上げられたボランティア団体による日本語教室が開設された。

取組3

講座の実施に当たっては、必要に応じ地域の関係者を専門講師に招いたが、これにより、外国出身者との接点生まれ、外国出身者が地域の関係者を認識するとともに、地域の関係者の側での外国出身者への対応が行われる例が見られた。(福島市の消防署においては、119番通報の司令室での対応の仕方を検証し、外国人が理解しやすい対応技術の向上を図っている。)

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

「3 各取組の報告」に記載した「広報及び募集方法」に加え、報道機関に事業開催の告知を行い、当日の取材を依頼した。その結果、新聞への掲載やテレビでニュースとして放送されるなど地域への発信ができた。

また、取組4については、広く一般県民に参加を呼びかけた。

(5) 改善点、今後の課題について

- ・日本語ボランティアに対し、「生活者としての外国人のための日本語教育」についての理念の理解と実践に向けた研修が必要である。
- ・取組1と同様の取組を他の教室でも実施し、県全体へ広く普及を図る必要がある。
- ・伊達市に開設された日本語教室については、今後も継続してより充実した活動ができるよう、求めに応じて支援していく必要がある。
- ・伊達市以外の日本語教室空白地域で、今回のノウハウを活かしその地域での開設に向けた取組をしていく必要がある。
- ・外国出身者コミュニティのメンバーが、講座の終わりに感じた「もっと日本語を学びたい」という意欲を、実際の日本語学習の継続に繋げる具体的な方策を考える必要がある。
- ・取組3と同様の取組を他の外国出身者コミュニティでも実施し、外国出身者の日本語学習意欲の向上を促す必要がある。
- ・セミナー等の開催により、継続して一般県民に対する外国出身者への日本語教育の意義と重要性の理解を訴える必要がある。